

1

## 後醍醐天皇伝説① つなかけのまつ 綱掛松



綱掛松から眺めた海

島根半島は国引き神話をはじめとした神話の地としてご存知の方が多いのではないのでしょうか。実は、かの有名な後醍醐天皇にまつわる伝説がこの島根半島の松江市島根町には存在するのです。後醍醐天皇と島根、どんな縁(ゆかり)があるのか?!

島根町は島根半島の中央東寄りに位置しています。北側は日本海に面していて洞窟や様々な大きさの島が点在し、独特の景観やマリンスポーツでも人気の地です。景勝地として有名な「加賀の潜戸(かかのくけど)」は、遊覧船で巡ることができます。

後醍醐天皇(1288-1339)とは、鎌倉～南北朝時代に活躍し、鎌倉幕府による武家中心の政治体制からの脱却を図った人物です。倒幕のたくらみが露見し一度は隠岐に配流されましたが、翌年本土へ帰還。鎌倉幕府を倒し、新たな政治体制を築きました(建武の新制)。お隣の鳥取県をはじめ各地に後醍醐天皇の伝説や逸話が残っていますが、島根半島にも後醍醐天皇は隠岐脱出の後に訪れたという伝説が伝わっています。

その伝説の場所の一つが、島根町瀬崎地区の港にある「綱掛松」。後醍醐天皇がこの地に上陸する際、船のともづなを掛けた松といわれています。老朽化により今は切り株に姿を変えています。知らなければ見逃してしまうぐらいポツンとしていますが、柵を築き、しめ縄をかけて大切に保存されていることから、この伝説をいかに大切にしているか、地元の方の思いを感じました。

ストリートビューで切られる前の松の姿が確認できます!!(2021/1/29 現在)

潜戸観光遊覧船  
<https://www.kankou-shimane.com/destination/20740>

※記載の情報は、2020年の秋・冬に取材した時点のものです

[BeMoveしまね] 島根県立大学生が行く! 島根県SNS観光PR大使プロジェクト



人間文化学部地域文化学科  
地域文化学科 民俗学ゼミ 糸賀&小村



綱掛松の跡地



綱掛松の由来が書いてある看板



綱掛松近くの荒神さん



沖泊の高岩



弁慶の潮掻き穴

さて、民俗学的観点でみると、沖泊と野井に伝わる後醍醐天皇伝説は同じメッセージを伝えています。つまり、大前という家の家格や、村上という姓の由緒が後醍醐天皇に関連付けて説明されているのです。このように、伝説からは現代の地域や社会を読み取ることもできます。面白いですよね。



野井の風景



津上神社

2

## 後醍醐天皇伝説② ゆかりの 天皇縁りのお名前?!

島根町の沖泊地区、野井地区にも後醍醐天皇伝説が伝わっています。

まずは沖泊地区。隠岐から脱出し島根町に上陸した後醍醐天皇は瀬近くの宮(現在の津上神社とされる)に通されました。しかし、その宮は小高い場所にあり北風が寒かったため、「大前さん」の屋敷に迎えることになりました。このことから「大前さん」は「天皇をお迎えした家」として、家の前を通過するときには雪駄などの履物を脱がなければならなかったといえます。「大前」とは屋号のことで、現在も沖泊にあります。



沖泊のまちなみ

続いて、野井地区。野井を訪れた後醍醐天皇は宮本又右工門という人物の家に招かれました。その記念に宮本又右工門は「村上」という姓をもらったといえます。野井ではこの村上家から村上姓が広まり、本家の庭先には御綸旨塚(ごりんじづか)という石碑が現在も大切に祀られています(一般公開はされていません)。